



令和5年度 宿利原小学校だより

宿っ子

7月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



夏休みも家庭・地域であいさつできる子に！

校長 濱田 直子

子どもたちの大きな事故・事件もなく無事一学期を終えることができました。第一学期の学校教育への御理解、また諸行事への御協力ありがとうございました。保護者の皆様並びに地域の方々に心よりお礼申し上げます。

宿利原小学校では、朝と帰りに職員室に来て「あいさつ」をすることを教児ともに取り組んでいます。その中で、「学校・家庭・地域で、心のこもったあいさつ」ができるようになるといういなあと思っています。



七夕集会の様子

「学校では、立ち止まり相手の目を見て、明るくあいさつして礼をする。」(名前を付ける)

「友達同士では、名前を付けてやさしくあいさつする。」

「家庭では、感謝の気持ちをもってあいさつし、地域では、自分から進んであいさつする。」

先日行った不審者対応訓練(声かけ等)でも、警察の方から「しっかり顔を見てあいさつすること」が防犯につながることを教えていただきました。いつでも、どこでも、だれにでも明るいあいさつができる宿利原小の子どもであってほしいと願っています。そして、私たち大人も子どもたちの良き手本となるよう意識していきたいですね。

さて、いよいよ夏休みに入ります。42日間という長期の休みですが、この夏休みを有意義に過ごさせ、心身ともに成長させることは、学校や保護者の皆さんの大きな仕事です。

学校では、担任が学習の課題や理科研究・作文・図画などの作品応募の課題を与えています。毎日すること、チャレンジすることを計画してみましょう。家庭では、家庭の一員としての役割を与えることも必要と考えます。子どもたちのすることは遊びや学習だけではありません。一家のために役立つことを実行させてみてください。「我が子を伸ばす」「我が子の良いところを発見する」ことにも目を向けてみてください。夏休みは家庭教育の絶好の機会です。親が、子どもと共に育つ夏休みにしたいですね。

また、『夏休みの生活のしおり』に夏休みの過ごし方について書いてあります。自分の子どもだけではなく、全ての子どもに対して目配り・気配り・声かけをお願いします。

特別支援教育について

近年特別支援教育へのニーズが高まってきています。学校生活において困り感のある児童の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。困り感は、どの児童も多かれ少なかれ感じるものです。本校でもそれぞれの児童への適切な支援が行えるよう、職員が一体となって取り組んでいます。

業務改善について

「働き方改革」が叫ばれる中、鹿児島県でも教員不足が深刻な問題となり、学校でも業務改善への取り組みを進めています。業務の簡素化、効率化や時間外勤務上限の遵守など、自分の能力を生かせる働きやすい職場を目指しています。地域や保護者の方々もどうぞご理解・御協力よろしくをお願いします。